

各関係機関・団体長 様

愛媛県病虫害防除所長

病虫害防除技術情報（第 9 号）の送付について

このことについて、次のとおりお知らせしますので、御参照の上、発生の確認と防除指導方よろしくお願ひします。

記

1 情報の内容 **穂いもち防除の徹底について**

2 発生状況

- (1) 8月の定点調査における普通期栽培の葉いもちの発生圃場率は77.8%、発病度は2.29となっており、7月には未発生の圃場で発生がみられるなど、やや多の発生となっている（表1）。また、8月の台風9号やその後の長期間に渡る天候不順が続いたことから、罹病性品種や中山間部では上位葉の葉いもちの発生が増加している（写真1）。
- (2) 8月（8/5～26）の広域調査では、いもち病の発生圃場率は57.2%と平年の38.6%と比較すると高く、昨年並の多い発生となっている（図1）。
- (3) BLASTAMによる葉いもちの感染好適条件では、8月12～23日にかけて、感染好適日が出現している（病虫害防除所ホームページ掲載データを参照）。
- (4) 気象予報では、気温、降水量、日照時間ともにほぼ平年並とされており、現在の発生傾向が続くものとみられる（令和3年8月5日付け 病虫害発生予察注意報（第2号）参照）。

3 当面の防除対策

- (1) 特に葉いもちが、上位3葉までに認められる圃場では出穂期防除は必ず行う。
- (2) 出穂後に天候不順が続く場合には、穂いもちの発生を考慮し、出穂10～15日後の仕上げ防除時に、いもち病に効果のある薬剤を追加して散布する。
- (3) 粒剤等薬剤によって使用時期が異なるので注意し、農薬使用基準は遵守する。

表 1 普通期栽培における葉いもちの発生状況

	7月調査		8月調査	
	R3	平年	R3	平年
発生圃場率 (%)	0	9.27	77.80	32.60
発病度	0	0.14	2.29	0.94

定点調査（18圃場）の結果。発病度は、株ごとの発病程度を以下の基準で調査して算出。A：下葉は枯死し、ずり込み症状を呈する、B：かなり病斑が見られ軽いずり込み症状を呈する、C：病斑がかなり見られる、D：病斑がわずかに見られる、E：病斑なし。

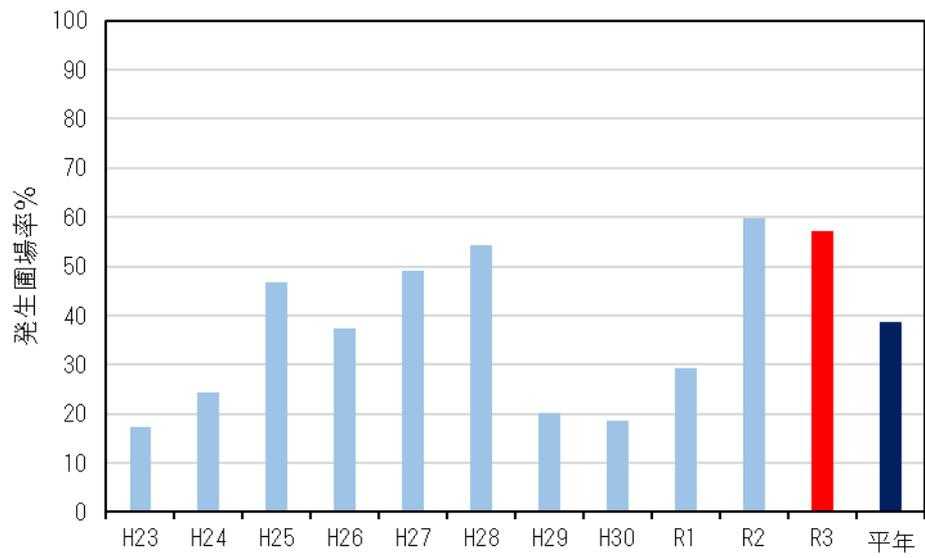


図1 広域調査(8月実施)におけるいもち病の年別発生状況



写真1 葉いもちの上位葉の発生(左)、穂いもち(右)